

## 調査報告概要表

作成日 2007年4月20日

### 【評価実施概要】

事業所番号	4671000273
法人名	医療法人 微笑会
事業所名	グループホーム えがお
所在地 (電話番号)	鹿児島県指宿市十町2392番地2 (電話) 0992-22-4090
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年4月20日

### 【情報提供票より】(平成18年10月1日事業所記入)

#### (1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤	人, 常勤換算 8 人

#### (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造防火サイディング造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

#### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

#### (4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

#### (5)協力医療機関

協力医療機関名	・今林整形外科 ・宮崎歯科医院 ・岩下眼科医院
---------	-------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地中央の主要官庁近くに位置し、交通の便に優れている。同敷地内に併設クリニックがあり医療連携体制が整っており、隣接のリハビリ施設を利用する方々が、気軽に立ち寄ることのできる明るい雰囲気のあるホームである。前回の外部評価結果を受けての取り組みをしており、利用者が自分らしく暮らし続けることを管理者はじめ職員が大切に考えている。地域とは法人全体で関わりを持てるよう、お祭り等のイベントも開催している。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の説明文書等への記載については、ホームのパンフレットに明示するよう改善している。利用者の食器については家庭的なものとなっており、職員研修は外部の研修だけでなく、法人内やホーム内で開催している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組んでいる。外部評価の意義についても理解しており、前回の評価をいかして具体的な改善策をとっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政担当者・地域の代表者・利用者家族等に対して状況報告をするともに、今後の取組みや、グループホームへの意見等を話しあう場としている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームだよりの「えがお通信」を発行し、日常生活ぶりや行事内容を定期的に家族へ報告している。また、家族会を年に二回開催して質問や意見を出してもらったり、意見箱を活用している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会に加入し清掃活動等に参加している。併設クリニックが開催する行事への参加をし、地域の人々と交流する機会を設けている。

# 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者とともに生活するという視点や笑顔を絶やさないという旨の理念をつくってはいるが、地域の中で生活していくという視点では十分な検討をしているとはいえない。	○	地域密着型サービスの役割を、管理者や職員が十分に理解することが望ましい。利用者が地域の中で暮らし続けるうえで、事業所として何を大切にしていけるのか、果たすべき役割について再検討をし、地域密着型サービスとしての理念をつくりあげることが望まれる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目につきやすい場所に掲示し、管理者職員ともに毎朝申し送り時に唱和して理念の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人として地域自治会に加入し、公民館の清掃活動などに参加している。隣接するリハビリテーション施設の利用者が立ち寄り、近隣の住民が野菜を持ってきたりと日常的な来訪がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を活用して、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組んでいる。外部評価の意義についても理解しており、前回の評価をいかして具体的な改善策をとっている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者・利用者・家族など多方面の方々をメンバーとし、二ヶ月に一度開催している。状況報告をするともに参加メンバーからの懸案項目についての検討を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者や関係職員へは積極的に情報提供をし、問題解決へ向けての取り組みをともに行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「えがお通信」の発行や家族会の開催を通して、ホーム全体の様子と利用者の様子について定期的に報告している。金銭管理に関しては、家族に出納簿の確認をして頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	合同家族会で出た質問などにはその都度応対し、個別懸案については職員で検討し質の向上をめざす取り組みをしている。また、ホーム内玄関に意見箱を設置し家族の苦情・意見を吸い上げる体制をつくっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの管理者や職員による支援の重要性を十分認識しており、職員の異動等によるダメージを防ぐ配慮をし、安定したケアを提供している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員は研修報告を行っており、ホーム内のケアカンファレンスは月に一回開催している。併設医療機関の研修会にも参加し、多方面からの学習を心がけている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	指宿地区地域密着型サービス事業所連絡協議会において、研修参加や職員交流を行い、同業者同士のネットワーク作りを図っている。他ホームからの見学もあり、情報交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を決める前に、利用者と家族に部屋のつくりや暮らしぶり・食事の様子などについて見学してもらう機会を設けている。同法人内のリハビリテーション施設を利用中の方の利用希望が多いため、導入は比較的スムーズである。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や昔からの風習などについて、職員が利用者から教えてもらう場面が多々ある。利用者は人生の先輩という姿勢で接するよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で利用者の希望や意向を引き出すように努めており、申し送り等を通じて職員間の情報の共有を図っている。また、非言語的動作からも読み取るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本位の介護計画となるように本人や家族の要望を聞き、月に一度のケアカンファレンスで、他職員の意見も反映する形で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間は設定してはいるものの、現状に即した計画の見直しやモニタリングの記載を認めることはできない。	○	モニタリングの記録を残すとともに、すべての職員が介護計画を把握できるような配慮が望まれる。計画内容を職員の目に入りやすいような場所に置くなど工夫し、いつでも意見をもらえる体制をつくることによって、より現状に即した介護計画となるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や美容院の送迎支援をするとともに、宿泊家族の食事を実費のみで準備するなど、本人や家族の状況によって発生するニーズに、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医と連携をとり、通院や往診など必要な時に、適切に医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた方針まではまだ確立されていないが、様々な取り決めの必要性は認識している。今後は家族・職員・医師なども交えて検討していく予定である。	○	重度化や終末期のあり方については、家族会で議題に挙げる等して家族の意見を反映されたい。ホームとしての対応指針は、チーム全体で話し合い、職員の教育へと結びつけていくことが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るとともに、利用者一人ひとりの誇りを大切にしたケアを目指している。記録物は管理されており、ホームだよりの写真掲載や電話対応についても注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間など利用者のペースを大事にし、個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員はそれぞれができることを分担して行い、一緒に食事作りや後片付けに取り組んでいる。それぞれ楽しく会話をしながら、明るい雰囲気ですべてをとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決めているが、状態の変化や利用者の希望により、柔軟な支援を取りいれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌や体操など、利用者一人ひとりの特技が発揮できるような場面づくりや役割を設けている。担当分野の仕事が終わったときは、感謝の言葉を添えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の体調にあわせて、日常的に散歩にでかけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	対応困難な利用者に対し、検討の結果、決まった時間だけ玄関の鍵をかけている。そのため、他の利用者の外出に支障をきたしており、今後は、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援していきたいという意向はある。	○	一時的手段としての鍵の利用ではあるが、鍵に頼ることなくホーム全体が自由な暮らしとなるよう見守り体制の工夫が望まれる。また、他の利用者の外出を勘案し、地域との見守りネットワークづくりも重要となってくるものであり、今後は運営推進会議等でも検討されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回の避難訓練を行っており、地域の協力体制も公民館長を中心に徐々に得られてきつつある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の摂取記録に記載しており、月に一度の体重測定で状態を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感のある共有空間となっており、利用者が描いた絵を壁に飾っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	位牌をはじめ、今まで使っていた家財道具を自由に持ち込んでもらって、それぞれの居室作りに取り組んでいる。一人ひとりの生活スタイルを大事にしており、利用者によって居室の雰囲気も異なっている。		